中学校
２年

# 新しい地図記号を作ろう！

富田林市立金剛中学校

| 教科 | 社会 | 単元名 | 世界からみた日本のすがた |
|---|---|---|---|

## 本時のねらい

・地形図に表現されるさまざまな地図記号について、その成り立ちを知り、身近な地域の様子を地図記号を用いて表現できるようにする。

## 本時における１人１台端末の活用方法とそのねらい

・地形図の電子データを生徒個人に送信することで、拡大・縮小しながら地形図を読み取りやすくする。
・他の生徒と考えや作品を共有することで、多様な考え方に触れ、地形図や地図記号について、自分の思考をより深める。

## 活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

・ iPad　・ロイロノート　・Google マップ　・テレビモニター

## 本時の展開

| 学習の流れ | 主な学習活動と内容 | ICT 活用のポイント・工夫 |
|---|---|---|
| 導入<br>（5 分） | ○Google マップや地図帳の地図と「地形図」とのちがいは何だろう？<br>○本時のめあて、『富田林市の「地形図」を見て、自分の住んでいる地域の様子を方位や地図記号、距離などを使って表せるようになる』。 | ・ロイロノートで Google マップと地形図の２枚のカードを送り、生徒自身が拡大するなどして、違いを見つけやすくする。 |
| 展開<br>（40 分） | ○次の地図記号の由来について考える。<br>１．税務署→そろばんの玉　２．消防署→剣又<br>３．郵便局→逓信局のテ<br>○次の２つの地図記号は、小中学生への公募によって決まった。それぞれどんな記号か？<br>１．老人ホーム　２．風車<br>○独自の地図記号を考案してみよう。<br>・複雑な絵にならないようにする。<br>・由来についても説明できるようにする。<br>○富田林市の地形図から、「自分の家」と「学校」を見つけ出そう。<br>○「自分の家」や「学校」の周辺地域について読み取れることを地図記号を用いて説明する。<br>・学校から東に進むと、消防署がある。<br>・寺ヶ池のそばには針葉樹林がある。　など | ・地図記号一覧のカードを送り、どれが公募によって決まったものかを考える。<br>・ロイロノートのカードに手書きで地図記号を作成し、提出された地図記号を学級全体で共有する。<br>・富田林市の地形図の電子データをクラスに送信する。<br>・送られてきた地形図から「自分の家」と「学校」を見つけ出し、ペン機能を使って印をつける。 |
| まとめ<br>（5 分） | ○本時の学習を振り返る。 | |

## １人１台端末を活用した活動の様子

写真１：どれが小中学生の公募によって決まった地図記号か、ペアで話し合っている場面。

写真２：独自の地図記号を考えて、作っている場面。

写真３：学校からどの方位に何があるかを見つけ、プリントにまとめている場面。

## 児童生徒の反応や変容

はじめに、地図記号の成り立ちを学習し、その中で、時代の変化に伴い、地図記号も新しく作られることがあることを説明した。独自の地図記号を考案する際、現在の新型コロナウイルスの感染状況や外国人観光客の増加傾向を踏まえて、地図記号を作成している生徒もいた。

## 授業者の声～参考にしてほしいポイント～

ロイロノートを使って地形図の電子データを読み取らせたところ、自分のペースで拡大・縮小が自由にできるので、「自分の家」や「学校」以外にも色々な場所を見つけたり、さまざまな地図記号を探したり、意欲的に地形図を読み取っていた。